

経営方針

(1) 経営の基本方針

当社グループは「常に新しい価値を創造し、これを支える人々の幸せをつくる」を企業理念として、独自の技術力、開発力をベースに事業展開を図っております。社会の大きな転換期を迎える中、当社グループは「エネルギーをかたちに」をテーマに、電気や光などのクリーンエネルギーを用途に応じた最適なかたちに創りあげ、今求められる様々な期待に的確に対応しながら、人に、社会に、産業に、そして時代にふさわしい新しい価値の創造を目指しております。

(2) 利益配分に関する基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策のひとつと考え、安定的な配当を継続することを重視しておりますが、それと同時に、配当は基本原則として、1株当たり利益の推移、配当性向等を併せ、総合的に勘案して決定すべきものと考えております。一方、内部留保は業績拡大のための投資や競争力の維持・強化に活用したく考えており、これが将来にわたる成長を続け、長期的な株主の利益を安定的に確保することに繋がるものと確信しております。

(3) 中長期的な経営戦略

当社グループは、2001年4月より2004年3月までの3ヶ年の新中期計画「CREATE-21計画」をスタート致しました。

21世紀を迎え、当社グループの事業の核となる電池が「情報化の進展」「機器のモバイル化」と相俟って、更にはクリーンエネルギーが求められる環境の下でますます重要となりつつあります。これを踏まえ、当社グループは、「CREATE-21計画」に基づきグローバル競争に打ち勝つ経営基盤を確立すると共に更なる発展を期し、「エネルギーをかたちに」する分野で創造的革新にチャレンジします。そのため、次の3つの基本方針を掲げ取り組んで参ります。

更なる経営効率化と収益基盤の強化
グローバルな販売、事業体制の強化
成長分野の強化と新事業開発の推進

(4) 対処すべき課題

「CREATE-21計画」に基づき、当社グループが具体的に対応すべき重点施策として、
事業プロセスの効率化・最適化による一段のトータルコストダウン
国内を含む各拠点の戦略的機能を明確にすることによるグループ事業の強化と海外市場のマーケティング・販売体制の強化
コア事業及び周辺事業における新商品・新技術・新市場の取り組み
人的効率化の推進
資産の効率化を踏まえた有利子負債の削減とキャッシュ・フローの向上
環境マネジメントの強化

を掲げ、推進して参る所存であります。

(5) 目標とする経営指標

「CREATE-21 計画」において、当社グループは 2003 年度の目標として次の通り経営目標を掲げております。

収益計画（連結）	売上高	1,900 億円
	当期利益	35 億円
	ROA	5%
	ROE	8%
財務	有利子負債	連結 500 億円（200 億円削減）
研究開発投資	単体 3 ヶ年累計	130 億円
	新商品売上高比率	30%以上の維持

(6) 会社の経営管理組織の整備等に関する施策

当社は商法で定められた取締役会に加えて、役付取締役で構成する経営執行会議として常務会を設置しております。更に、事業遂行を図る上で、現在 5 事業部体制を採り、事業利益責任体制（プロフィットセンター）を明確化すると共に、事業企画、商品企画、グローバル対応などの事業機能の強化を推進しております。他方、主力製品である鉛電池の生産部門はコストセンターとして位置付け、最適生産、コスト低減、高品質の徹底を図っております。

また、平成 13 年 2 月には監査室を設置し、当社グループ全体を対象として監査役監査と連携し内部監査の充実を図りました。

経営成績

(1) 当中間期の概況

当中間期のわが国経済は、バブル崩壊に伴う長期不況やデフレの進行に加え、昨秋以来のアメリカにおける IT 不況が追い討ちをかけるなど厳しい局面が続きました。そのため、企業の景況感は大幅に悪化し、設備投資の抑制が進むとともに、雇用調整の一段の加速により失業率が 5%の大台を超えるなど、企業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。

このような経営環境のもとで、当社グループは積極的な販売施策の展開、新技術・新商品の開発、新事業の強化等に努めましたものの、IT 関連の情報通信分野向け電池・電源、とりわけ携帯電話市況の悪化による小型リチウムイオン電池の大幅な売上高の減少により、当中間期の連結ベースでの売上高は 608 億 7 千 9 百万円と前中間期に比べ 99 億 2 千 6 百万円（14.0%）の減少となりました。

利益面についてであります。当社におきましては、人員の削減、生産の合理化、物流・販売効率の向上など、様々なトータルコストダウン施策に積極的に取り組んで参りましたものの、売上高の減少や売価ダウンによる影響を受け、営業利益、経常利益ともに減少しました。また、小型リチウムイオン電池の製造・販売子会社であるジーエス・メルコテック（株）は、売上高の大幅な減少により、赤字決算となりました。これに対し、国内の販売子会社・生産子会社・サービス子会社は前中間期の利益を上回ることが出来ましたが、海外の子会社である台湾・中国の統一工業グループや、海外の関連会社のタイ、インドネシアの合併会社は前中間期の利益を下回りました。

以上の結果、ジーエス・メルコテック（株）の赤字決算の影響が大きく、営業損失は 5 億 9 千 3 百万円、経常損失は 13 億 2 百万円、中間純損失は 7 億 9 千 1 百万円となりました。